



あいぽーと徳島では、人権に関するさまざまなイベントを開催しています。

特集

日本の「格差」と「分断」をリアルに目を向けよう

令和6年度 人権教育啓発リーダー養成講座(前期) 第2回 令和6(2024)年7月20日開催

見えにくい 日本の貧困事情

「1億総中流」という言葉があったように、昔は日本は非常に格差が少ない国でした。ところがだんだんといろんな形で格差が開いてきて、今は様々な問題が生じています。生徒の1/3ぐらいが医者さんの親を持つ私立のエリート校もあれば、一方で9割以上の子どもたちがいわゆる貧困家庭だったり、1食あたり300〜400円ぐらいの給食費を払える家庭が半分にも満たなかったりする学校もあります。

日本の貧困は海外の貧困と違い、なかなか目に見えるものではない。途上国の貧困は物理的に物がない状況にある「絶対的貧困」と呼ばれますが、生活保護が整い学校や病院にも行ける日本では同じ貧困であっても「相対的貧困」と呼ばれ、見えにくいのが特徴です。

経済格差が生み出す 3つの問題

広がり続けてきた経済的な格差の中、貧困家庭で育った子どもたちはどういった問題を抱えてしまうのでしょうか。そこには体験・教育・言語の3点を挙げる事ができます。体験というのは習い事やイベントの参加、家族旅行やクラブの合宿など、学校教育以外の体験で、これが経済格差によつて下層の人たちは圧倒的に少ない傾向にあります。学校以外の体験が1年間でゼロという子どもは、年収600万円以上の家庭だと約11%ですが、300万円未満になると約30%になります。ゼロということとは学校と家の往復だけという事です。お金がないから行かせてあげられないという理由以外に、保護者自身に体験の記憶がない、つまり親自身がすでに貧困の連鎖に組み込まれている人たちで、親自身が体験の意味や重要性を自覚していないため、子ども

にもさせないという悪循環が起きています。体験は学力のようにいきなり点数化できるものではありませんが、周囲との関係性が深まったり自信がつくことによる自尊心の形成や、向上心、自制心、忍耐力、勇気、共感力などと結びつく非認知能力の低下も体験格差が生み出す精神の貧困に関係してきます。またお金がないから塾に通えない、教材を買ってもらえない、書籍も買ってもらえない、希望する学校へ進学できないといった教育格差は、子どもの教育が不十分になって低所得になるという悪循環を生み出します。

そして言語は、人間が生きる上で最も重要な能力のひとつで、言葉できちんと考えて表現し、実行することに関係してきます。ボキャブラリーが少なく言葉で思考できないとい

講師：石井 光太さん
いしい こうた
作家

中面へ続く



(音声コード)

令和6年度 人権教育啓発リーダー養成講座(後期)

どなたでもお申し込みいただけます。

参加無料
申込必要
※申込受付は前日まで
申込みフォーム



第5回
テーマ 障がい者の人権
日時 令和6(2024)年11月13日(水) 13:30~15:00
会場 アスティとくしま2階 第6会議室
徳島市山城町東浜字傍示1-1
演題 弱さを愛せる社会へ
講師 野澤 和弘(のざわ かずひろ)さん
植草学園大学 副学長/
一般社団法人スローコミュニケーション 理事長

第6回
テーマ 男女の人権
日時 令和6(2024)年12月13日(金) 13:30~15:00
会場 アスティとくしま2階 ときわプラザ 学習室
徳島市山城町東浜字傍示1-1
演題 男性の生きづらさから考える男女の人権
講師 多賀 太(たが ふとし)さん
関西大学 文学部 教授/
一般社団法人チエンジングメン共同代表

第7回
テーマ インターネットによる人権侵害
日時 令和7(2025)年1月15日(水) 13:30~15:00
会場 アスティとくしま2階 第6会議室
徳島市山城町東浜字傍示1-1
演題 インターネット上の誹謗中傷の実態～加害者にも被害者にもならないために～
講師 山口 真一(やまぐち しんいち)さん
国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授

第8回
テーマ 犯罪被害者の人権
日時 令和7(2025)年2月2日(日) 13:30~15:00
会場 アスティとくしま2階 ときわホール
徳島市山城町東浜字傍示1-1
演題 きょうだい犯罪被害に遭うということ
講師 御手洗(みたらい)さん
佐世保小6女児同級生殺害事件の被害者の兄
聞き手 内海 千種(うちうみ ちぐさ)さん
国立大学法人徳島大学大学院教授/公認心理師/臨床心理士

第2回 県民講座
安心して認知症になれる社会に向けて～認知症の本人とともに～
日時 令和6(2024)年10月19日(土) 13:30~15:00
会場 アスティとくしま2階 第6会議室 (徳島市山城町東浜字傍示1-1)
講師 堀田 聡子(ほった さとこ)さん 慶応義塾大学大学院 教授

同和問題講演会
私は部落から逃げてきた
日時 令和6(2024)年11月23日(土) 13:30~15:00
会場 アスティとくしま2階 第5会議室 (徳島市山城町東浜字傍示1-1)
講師 西田 昌矢(にしだ まさや)さん ジャーナリスト

◎国立療養所 大島青松園 訪問学習～知ってほしいハンセン病のこと～

令和6(2024)年11月頃実施予定

◎サテライト講演会 県南部

令和6(2024)年12月17日(火) 阿南市文化会館にて実施予定

◎冬休み子ども体験プログラム

令和6(2024)年12月26日(木) イオンモール徳島にて実施予定

詳細が決まり次第、あいぽーと徳島のホームページなどでお知らせいたします。



主催・問い合わせ：あいぽーと徳島(徳島県立人権教育啓発推進センター) Tel.088-664-3719 ホームページ <https://www.aiport.jp/>

人権相談のご案内

あいぽーと徳島では、人権擁護委員・弁護士による人権相談を行っています。まずは電話にてご連絡ください。

Tel.088-664-3701
(徳島県男女参画・人権課分室)

一人で悩まず
お電話を

- | | | |
|-----------------------------|-------------------------|------------|
| ●人権擁護委員による相談 | 第2・第4土曜日 (10:00~16:00) | 面接相談及び電話相談 |
| ●弁護士による相談(要予約) | 第1・第3金曜日 (13:00~16:00) | 面接相談 |
| ●弁護士によるインターネット上の人権侵害相談(要予約) | 偶数月の第2金曜日 (13:00~16:00) | 面接相談 |

[編集・発行]

あいぽーと徳島

徳島県立人権教育啓発推進センター

指定管理者 特定非営利活動法人 徳島ヒューマンネット

〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目14 沖洲マリンターミナルビル内

Tel.088-664-3719 Fax.088-664-3727

E-mail: info@aiport.jp

あいぽーと徳島 検索 <https://www.aiport.jp>

●開館時間／午前10時から午後6時まで

●休館日／月曜日(祝日の場合はその翌日)

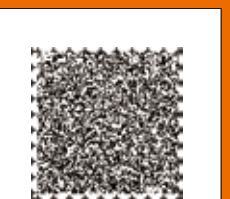
●年末年始(12月29日から1月3日まで)

●公共交通機関のご案内 JR徳島駅前から徳島市営バス⑥番のりば・徳島バス[中央市場線]に乗りし、[沖洲マリンターミナル]にて下車。



駐車場案内

お車を利用の場合、ビル西側駐車場の「あいぽーと徳島」と表記のある赤いコーンの場所に駐車してください。満車の場合は、ビル北側の県営有料駐車場をご利用ください。●3時間まで200円



(音声コード)

同性カップル 弁護士夫婦のカラフルデイズ LGBTQのこと、僕のこと、あなたのこと

人権教育啓発リーダー養成講座(前期)第3回 ●講師:南 和行さん(なんもり法律事務所 弁護士)
令和6(2024)年8月1日(木)開催

同性愛者であることを自認した後も、一生隠すことが正しいと思っていましたが、父の死もあり、このままでいいのかと考えるようになりました。父には本当の自分を伝えられないままの別れとなり、父の思っている自分と本当の自分には乖離があるのではないかと感じ、近くにいる家族や友人にも本当の自分を隠し続けることは、自分の事を半分しか分かってもらえていないようで寂しいと思いました。大切な人に同性愛者であることを隠すことが人生の目的になるのではなく、自分の事を正しく知ってもらうためにカミングアウトすることを選びました。母にこのことを伝えたときは否定されましたが、時間をかけて分かってもらうことができました。「同性愛のことをもっと早く知っていたら、こんなに時間がかからなかったかもしれない」と母は言っていました。

LGBTQという言葉は、線を引く言葉ではなく、知るきっかけとして使う、囲い閉じ込める言葉ではなく、説明する言葉として使ってほしい。普通でくくらずに、相手を知る手がかりにしてほしいと思います。

「法律や制度がないからしょうがない」ではなく、明確な回答が用意できないからこそ、まわりも一生懸命一緒に考える、誰もが生きやすい社会にしていきたいと考えています。

第1回特別展示を実施しました 平和学習「徳島大空襲」 ～戦争の悲惨さ・平和の尊さと人権～

7月20日(土)から8月25日(日)、あいぽーと徳島 展示・交流スペースにて、平和について考える機会として、第1回特別展示を実施し、1,029名の方にご来場いただきました。

- 【展示】徳島大空襲関係写真パネル、遺物(焼夷弾・焼夷弾の尾翼・固着した磁器片・アメリカ軍投下ビラ・防空頭巾・灯火管制用防空電球笠)関係図書等
(協力:徳島県立博物館、徳島県立文書館)
- 【動画】ふるさとを焼き尽くした劫火～徳島大空襲75年
【徳島新聞・YAHOO!ニュース合同企画】(協力:徳島新聞社)



令和6年8月1日 一宮下町地区人権教育・啓発推進協議会のみなさん



令和6年8月22日 沖洲小学校教職員のみなさん

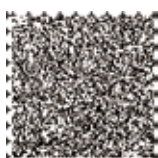
ホームページ配信講座・ケーブルテレビ放映

◎第7回 ホームページ配信開始しました。

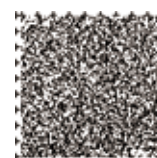
- 内容: 令和6年度 第1回県民講座
地域の災害対応力を高めよう
～令和6年度能登半島地震を踏まえて～
- 講師: 栗田暢之さん

◎第8回 11月ホームページ配信予定

- 内容: 令和6年度 人権教育啓発リーダー養成講座(前期)第2回
日本の「格差」と「分断」をリアルに目を向けよう
- 講師: 石井光太さん
- ※ケーブルテレビ共通チャンネル「ケーブル12」にて
11月2日(土)14:00～15:30放映予定



(音声コード)



(音声コード)

うことは、思考も行動も単純化されてしまっています。逆に言えば、言葉があればあるほど感じる力も想像する力も解像度が高まっていくんです。会社や家庭でうまくいかない時、改善するために何が悪かったのか、これから何をしたいかなければいけないかを、言葉で考え乗り越え人生を切り開いていくことができるからです。

体験・教育・言葉の格差の中で子どもたちが何かを大きく背負ってしまう、すべてを諦めてしまうことを、僕は「心のがん」だと思っています。「やっても無駄」「努力しても意味がない」「人生終わった」と若い子はよく言います。体験が少ないことによって自尊心や非認知能力が育まれておらず自分の命や人生を大切にする意味もわからず、教育格差の中で自分がくり返し挑戦することすら無駄と思わされてしまった、そして言葉の格差の中でそれらをきちんと理解することができない。この状況は子どもたちの人生のいろんな可能性を削ってしまうんです。日本には様々な支援制度がありますが、こういった心のがんを持つた人はそこにも引っかかるうともしませんが、はじめから人のことを頼ろうとも思いません。それを一人で打開する

■求められるのは
心を癒やすためのケア

心への取り組みとして挙げられるのは4つ。まずは「自尊心感情へのケア」で、人には他人と一緒にする共有体験で育まれる基本的自尊心と、それをベースにして特定のコミュニティの中でのみ評価される社会的自尊心感情があります。今の社会はどちらかというと社会的自尊心だけを伸ばそうという傾向が非常に高いように感じますが、格差の中で苦しんでいる子には、体験によって基本的自尊心をきちんと築いてあげられるチャンスを作っていくことが大切です。

次に「心の原風景を作る」こと。心の原風景とは、自分の育ってきた家庭環境以外の体験や光景が心の中に焼き付いていることです。たとえば家の中でほとんど親が帰ってこず、家族と一緒にご飯を食べたことがない子たちは、人とご飯を食べると楽しいということすら知りません。家族がうまくいってない子どもたちこそ、社会の枠組みの中できちんと理想的な生活や人間関係

を見せていくことが必要だと思います。

3つめは「心のマイナスに価値をつける」こと。辛い中で育った子たちが経験してきた不登校やいじめ、家出、リストカットなどいろんなマイナス要因は、消すことができません。しかし辛い経験があれば同じ境遇の子の気持ちかわかりますから、その子たちへの支援やメッセージという形で活かすような提案もできるはずですよ。

そして、「きちんと物事を言葉で話して考える」ということです。国語力のない家庭環境で育った子どもは、残念ながら基本的にはありません。環境の中でどれだけ解像度の高い言葉が使われるかによって、その子どもたちがどこまで深く言葉で考えられるかがイコールで繋がってきます。

日本にはある程度支援のネットワークが広がっていますが、圧倒的に足りないのが心のサポートではないでしょうか。我々一人ひとりが心のサポートに取り組むことによって、格差があっても自分で人生を豊かにしていけるという可能性を示す必要があると思っています。



11月
ホームページ
配信予定

11月2日
14:00～15:30
ケーブル放映

講師プロフィール 石井 光太(いしい こうた)さん 作家

1977年東京都生まれ。大学卒業後にアジアの国々をめぐり、ドキュメンタリー『物乞う仏陀』でデビュー。国内外の文化、歴史、医療などをテーマに取材、執筆活動を行っている。著書『遺体震災、津波の果てに』(新潮文庫)は映画化、2021年『こどもホスピスの奇跡』(新潮社)で新潮ドキュメント賞を受賞。主な著書に『絶対貧困 世界リアル貧困学講義』(新潮文庫)、『ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。』(ポプラ社)、『世界「比較貧困学」入門』(PHP研究所)、『格差と分断の社会地図』(日本実業出版社)など多数。